

# 「学ぶ つながる かえられる」講座への問題提起

2008/5/4 中央常任委員会

## ◆はじめに

みなさんこんにちは。今日は、北は北海道、南は沖縄まで、全国39都道府県から、たくさんの仲間が参加しています。はじめてこういう講座に参加して緊張している方もいると思いますが、これだけの仲間が集まって学び交流する貴重な機会だと思うので、講義の中身もたくさん吸収し、班の仲間ともおもしろい交流してほしいと思います。

最初に、中央常任委員会を代表して、今日の講座への問題提起を行います。問題提起では、私たち青年や同盟員にとって、学ぶことがどんな意味をもっているのか、学ぶことで、どんなふうに同盟員が成長し連帯をきずいているかを考えたいと思います。

## ◆「学ぶ つながる かえられる」を発揮した学習の探求とその魅力

みなさんは、昨年11月に開かれた全国大会のハイライトビデオはもう見ましたでしょうか。あのビデオの中にも登場しますが、第33回全国大会では、「民青同盟の基本的性格にふさわしく、学ぶとくみを全国すべての県・地区（地域）・班で日常的にすすめる民青同盟になろう」と「学ぶ つながる かえられる」大学習運動をよびかけました。この名前には、「つながる」という言葉に「いっしょに話し合う」「討論していっしょに考える」という意味をこめ、「かえられる」という言葉には、学習を通して、社会もかえられるし自分も成長できるという意味をこめています。

全国のとくみを聞くと、学習をひろげ深めていくうえで、「学ぶ つながる かえられる」を意識して学ぶことがとても大切だと思いました。

そもそも、みなさんは「学ぶ」ということにどんなイメージをもっていますか？「本を何冊も読んだり、長い講義を聞くのはつらい」「正解をもとめなきゃいけないから大変」という印象はありませんか？でも一方で、民青同盟に入って「学ぶ」ということのイメージが変わった人もたくさんいるんじゃないでしょうか。

さきほど紹介した、この「学ぶ つながる かえられる」の言葉にこめた意味を生かして、学ぶことのおもしろさ、自分が変わっていくことへの喜びを実感したという話をいくつか紹介して、学ぶ意味を考えてみたいと思います。

## ○「つながる」——「相手のことを深く考えるようになった」「人の見方がかわった」…学ぶことで、共感・連帯する力をはぐくみ、人間らしさをとりもどしていけることを実感

一つは、学ぶことで「相手のことを深く考えるようになった」「仲間や人間を大切にできる心、あたたかさを発揮できるようになった」という方がたくさんいました。

兵庫のある高校生は3月の全国高校生集会で、「僕が民青に入ったときはどこか人を見下して、政治のことを知らない人は意志が弱い、考え方が甘いと思っていました」「ある日、民青の会議に参加して『いまの青年は自己肯定感をもてないでい

る』と知り、いままでの僕の間観ってどうだったのかと疑問をもつようになりました。そして、民青の人たちと語りあううちに、僕自身が変わり始めていることを実感しました。自分がいままでバカにしていた『人と手をつなぐこと』の大切さを身にしみて感じさせてくれる、自分を丸ごと受けとめてくれる居場所ができたことがすごくうれしかったです」「いまは自分の成長も他人の成長も心の底から自然にうれしく思っている、ワクワクしている自分を仲間のおかげで発見でき、自分を信じることができました。どんな人も変えられる可能性があって、大きな心で向きあっていくことが大事だと思います。こんな民青をもっともっとひろげていきたいと思います」と発言しました。

もう一人、東京のある病院で働いている助産師さんは、「私は以前は、日々の忙しさの中で、困難を抱えた人たちを『手のかかる大変な人だ』と見ていたり、『お金ないのに妊娠するなんて計画制がないな』と、憤りを感じることもありました。でも班で綱領を学ぶ中で、『安心して子どもを生み、育てたいという願いにいまの政治は背をむけている』『個人が悪いんじゃない』と気づきました。見方が変わったら、困難を抱えた人にも、前より楽に接することができるようになりました。忙しさの中で『自己責任』の“常識”に縛られてやりがいを見失っている同僚みんなに民青を知らせたい」と話していました。

2人の方の思いを紹介しましたが、2人とも、学んだことで人間の見方がかわり、一人ひとりの人間を大切にするように変化しています。私たち青年は、子どものころから競争とふるいわけにさらされ続けてきました。いまのべた2人のお話は、日本の異常な社会のなかで“自分らしく”、“人間らしく”生きていくうえで学ぶことがいかに大切かということを示していると思います。そして、学ぶことが、自分自身も人間らしくやりがいをもって働くことや、仲間と手をつなぎいっしょに学んで成長していく喜びにつながっています。

全国大会では日本共産党の市田書記局長が、「民青同盟のみなさんが、連帯し、共感できる力を自身のなかに育ててきた。そのことが政治や社会をかえる力になっている。そこに誇りをもとうじゃないか」とうたえましたが、学ぶことがその誇りある力をつくりだしているのです。

## ○「かえられる」——「願いや要求に自信をもつことができた」「自分も前向きに生きられるようになった」…学ぶことで、社会をかえられる展望をつかみ、自分の生き方も見つけることができる

二つ目は、学んだことで、「社会はかえられる」ことを知り、自分たちの願いや要求に自信をもてたり、前向きに生きていけるようになっていくこと、そして自分の生き方にもつながっているということです。

滋賀県のある地域班の班員は、この4月から裁量労働制を導入されようとしている職場で働き、深夜11時をまわるときもあるそうです。しかし、昨年11月には、民青同盟の仲間と青年ユニオンで労働基準監督署にいて、残業代がつくようになりました。その仲間と先日、「これが人間らしい働き方のルール」という市田さんの本をいっしょに学んだら、「知らなかったらすべて受け身だった。残業代が出なくても無償でやらなきゃいけないものなんだ、仕事が自分のせいで遅くなっているからと、自分の責任にしていた」「職場でやめていく人がたくさんいたけど、

同じ職場の仲間がこのことを学んでいったら、みんなやりたいことを続けていけるし、いっしょにかえていけるんじゃないか」と話していたそうです。

また、徳島の県委員長の加戸さんは、「学習は“知らない自分との出会いがある”もの。視野がひろがったり、考え方が変わったり、そういう自分の変化と出会えるもの。私は学生のときに自分の哲学をもちたいと思っていて、どうやって生きていったらいいんだろうと悩んでいました。もっとひろい視野の中で、自分のためだけでなく、社会をよくするために生きたいと思っていた。はじめて日本共産党の綱領を学んだとき、ずっと探していたものが、ここにあると思いました」と話していました。加戸さんは、学んでいく中で、「この方向に歴史が動いていくと思った」「そのために自分の力をつかいたい」と、今民青同盟の専従者としてがんばっています。

2人のお話から、学習することで、自分たちの願いや要求のおおもとにある社会のしくみを見抜き、それをかえていく道筋をつかむことが、前向きに自分らしく生きていく力になっているし、この社会で自分はどうか生きていく力にもなっていることが、はっきりと示されていると思います。

同時に、加戸さんの「自分の哲学をもちたい」という願いに民青同盟の学びはこたえているということも大事です。いまの競争教育が切り捨てている“深く考える力”“しっかりとしたものの方・考え方”を、民青同盟のとりにくみをつうじてつかんでいるということは、青年にとって、民青同盟がかけがえのない存在になっていることをよく感じさせるものでした。

## ○民青同盟にとって学び成長することは“いのち”

もちろん一回学んですぐに「わかった」「生き方が変わった」というほど簡単なことではないけれども、一回一回の学習、一回一回の討論と交流が、一人ひとりの中に、“心の栄養”を与えているのではないかと思います。特に、日本共産党綱領や科学的社会主義を学ぶことが、同盟員が様々な悩みや困難に向きあいながら、前を向いて生きていく力になっていると思います。まさに、大会決定が述べているように、民青同盟にとって学び成長することが“いのち”だと実感しました。

そして、学ぶことに対して、必ずしもいいイメージをもっていなかった人や苦手意識をもっていた人も、仲間とともに学ぶことにふみだしてみても、そのおもしろさをつかんでいました。この講座でも、なぜ学ぶのか、学んで自分はどうかわったかなど、おおいに交流してほしいと思います。

## ◆民青同盟の基本的性格が青年の願いとひびきあっている

いま見てきた学びの魅力は同盟員にとってだけ魅力であるということではありません。こうした民青同盟の学びは、いま多くの青年が求めていることなのです。

## ○日本共産党綱領と科学的社会主義を学ぶ民青同盟の基本的性格を光らせよう

全国大会から5ヵ月、青年の願い実現をめざす運動の前進とともに、民青同盟の主張ととりくみ、基本的性格が青年の願いとひびきあう情勢が広がっています。この間、新歓運動や街頭の反応からもそのことを実感しました。

関東のある大学で対話になったある新入生は、「環境問題で

レポートをかいたとき、資本主義のままでは解決できないと思った。でも社会主義はソ連で失敗しているし、べつの仕組みが必要なのではと思っていた」と話し、民青のパンフレットを見せて、よびかけを読んだら、加盟用紙の決意の欄に「環境問題を解決するために社会主義を学びたい」と書いて加盟してくれたそうです。

神奈川で加盟したある学生は、中卒でいったん働き始め、その後北海道の高校を経て、大学を受験して神奈川に来ました。学費を払うことも苦しく、市役所に行っても対応されず、「法律は弱い人を守るためにあるのではないのですか」といったら、市役所の人に「時には逆のこともあるんだ」と追い返されたそうです。基礎講座のときには「自分は格差を身をもって体験してきた。岩手で働いていた友人の中には、缶ビールをボーナスの代わりにさせられた人もいた」と話していました。そこで市田さんの全国大会でのあいさつを読み、私たちが社会を動かしていることを紹介すると、「まじめに働いている人がたくさんいるけど、おかしいと思っている人もどうしていいかわからない人がたくさんいると思う」「でも、かえているんですね。すごいですね」と、彼の切実な思いとピッタリ重なり、元気になっていたそうです。

切実な願いをどうしたら実現できるのか、政治は本当にかえられるか、自分はどうか生きていくのか、多くの青年が考え始めています。そしていよいよ綱領や科学的社会主義を学ぶ民青同盟の基本的性格を光らせ、願いや模索にこたえていく民青同盟の役割が大きくなっています。「学ぶ つながる かえられる」大学習運動は、いま青年がもとめている民青同盟へと前進していくとりくみです。

## ○学ぶことは魅力ある班づくりをすすめるカナメ

大会後、全国の班と同盟員が、基本的性格がひびきあう情勢に確信をもち、ハイライトビデオを力にして、青年の願い実現の運動と魅力ある班活動、同盟拡大、大学習運動にとりくんできました。とりくみをつうじて、同盟拡大は今年の12月～4月と比べて、52名上回って前進しています。5月1日の機関紙申請では、民新・われ高とも前進することができました。

33大会は魅力ある班づくりと一体で組織的前進をもちとることをよびかけましたが、この間の大事な教訓は、そのよびかけを正面にすえて、全国でとりくみをすすめてきたことです。特に、「知りたい」「成長したい」「交流したい」という願いにこたえる魅力ある班活動をすすめるうえで、学習がカナメになっています。

高知県委員会では、月に一回、県委員会とは別に県委員の学習交流会を開いて「派遣法改正をもとめた志位さんの質問」や「民青新聞」で気軽に学んでいます。また、県委員全員が何らかのミニ学習に参加しようと、グループに分かれて、「空想から科学へ」や「新・日本共産党綱領を読む」などの学習をすすめています。「こなっちゃん」というあだ名をもつ県委員には「こなつの部屋」という名前の学習会を県委員長の浜川さんといっしょに開いています。こなっちゃんは、この学習会で「空想から科学へ」を学び、「歴史は突発的で無意味な行為が集まってつくられていくのではないし、神様が決めた運命をたどっているのでもない。今の私たちの社会も、これまで民青などが活動してきたことで起こった小さな変化が、いずれ大きな変化を起こす力になるんじゃないかと思いました」と感想を話し、

就職のことや母子家庭でお金がないことを悩んでいる班の仲間にも展望をもってほしいと、こんどは班で学習にふみだしています。

また、高知大班では、「空想から科学へ」や中田進さんの労働学校での講演をDVDで学習するなかで、社会の問題に対して自分が感じたこと、わからないことや他の仲間と意見が違うことも、率直に交流しあえる関係をつくることができ、その班の魅力に確信をもって新歓にとりくんで、3人の仲間を迎えています。

浜川さんは「わからないことはわからないでいい。自分が講師になろうというのではなく、いっしょに学ぶことが大事」と話していました。

各県さまざま、学習の努力や工夫も行われていますので、そのことも2日間の間におおいに交流して、この講座を力に、学ぶ魅力、基本的性格をいっそう輝かせる民青同盟へと前進していきたいと思います。

### ◆講座の目的——講義の内容を学ぶとともに、全国のと りくみと自分が感じた学びの魅力を交流しよう

今回の講座は、これまで5月連休にやってきた中央幹部学校を、大学習運動のとりにくみにふさわしく発展させ、より魅力的で、大きな規模で行おうと今年初めて開催したものです。

この講座では、ランチタイム交流会の時間、分散討論の時間があります。講義の中身を学ぶということと同時に、なぜ学ぶのか、学ぶことにどんな意味があるのか、学んだことで自分がどう変わったか、ぜひ交流してみたいと思います。そして、新しい日本と世界の見方、成長してきた自分を発見し、学び成長できる民青同盟へと前進していく講座として成功させましょう。

すべての同盟員が学ぶ楽しさ、成長のよろこびを実感できる民青同盟になっていくために、この講座で得たこと、感じたことを、ぜひ県にもどって仲間に伝え、多彩に楽しく学習にとりくんでほしいと思います。

以上

## 閉講式でのまとめと行動提起

2日間、おつかれさまでした。今回の「学ぶ つながる かえられる」講座は初めてのとりくみでしたが、39県から177名の同盟員が参加し、講義に集中する真剣なまなざしと、熱気あふれる討論で、画期的な成功をおさめたと思います。今回、会場や食事、物品の手配など、さまざまな面で援助をいただいた、日本共産党の方々、要員の方々に感謝の気持ちをこめて拍手を送りたいと思います。(拍手)

この講座の全体の特徴を表すとすれば、2つの講義と討論、分散討論と交流の全体を通して、初めて綱領や科学的社会主義を学んだ人も、また何度も学んでこられた人も、それぞれなりに、学びの魅力と「学ぶ つながる かえられる」の大切さを発見し、深めた2日間だったということだと思います。

1日目の「青年の願いと日本共産党綱領」の講義では、「青年の生きづらさ」の問題を入口に、そのおおもとにある原因、政治の異常にせまり、その現実をかえていけるんだという展望をつかむことができました。

1日目の講義の感想文では、雇用や教育、憲法・平和、環境問題などの各分野で日本の異常と世界の流れを知り、「こんな政治は許せない。絶対にかえたいと思った」という感想がたくさん寄せられました。同時に、今回の講義で特に特徴的だったことは、自分自身の生きづらさ、切実な願いや模索と重ねて、綱領にむきあい、綱領の示す未来を、自らの問題としてつかむことができたことだと思います。

千葉から参加したある同盟員は、「今回初めて日本共産党綱領を読みました。世間や自分が考えていた以上に、考え方に柔軟性があり、これからの時代を“いかに生きるか”を見いだしていく上で、一つの指針になり得るのではないかと思います。まずは今日頂いた資料と綱領を“学ぶ”ことから始めたいです。その中で主体的に社会の諸問題を考え、民青の仲間と話しあい、世の中を少しでも“かえる”ためのアクションを起こしていきたいと思います」と感想を書いています。

また、徳島の仲間は「自分たちの実態や悩み、要求をだしあって、その背景にどんな問題があるかを考え、話し合うことが綱領を学ぶうえで大切なんだということをあらためて感じました。綱領って難しい、自分には綱領を語ることなんてできなと思ってたけど、そういうのでいいんだな。そう思ったら、自分にもできるじゃん！と思ってうれしくなりました」と述べています。

講師の小野川さんは、最後に、「若者が若者であることすらうばわれているという問題がある。だからこそ成長や葛藤を大事にしよう。そして自分の願いから、自分たちの願いへ、自分の未来は自分たちの未来であるということをつかみ、主体的に社会へ働きかけることで若者であることを回復しよう。その道しるべに綱領がなるのではないか」というメッセージをくれましたが、この言葉を胸に、人間らしく、若者らしく生きることのできる社会を、私たちの手でつくっていきたいと思います。

また、2日目の田村さんの講義では、マルクスやエンゲルスの研究とたたかひの足どりから、「ものの見方・考え方」をつか

むことが、私たちの生き方や活動にどうかかわってくるのかを示されたと思います。きびしい現実を前に、「スピリチュアル」にひかれる青年もいる状況があるなかで、経済的土台に注目して人間を見ることの大切さ、そして一人ひとりの人間が主役になって社会はかえていけるんだという考え方をつかむことが、私たちが生きていくうえでも、民青同盟の活動に元気にとりくみ、仲間や自分の小さな変化も確信にし、リーダーへと成長していくうえでも、とても大きな意味をもっていることが実感できたのではないかと思います。

こうした講座の中で交流され深められた内容をふまえて、中央常任委員会として、3点行動提起をしたいと思います。

一つは、要求や関心にねざして、学ぶとりくみを「気軽に」「楽しく」やることです。今回の講座では、綱領や科学的社会主義が、青年の願いや関心と多面的な接点をもっていること、青年の願いや模索に正面からこたえる力をもっていることが明らかになったと思います。学習を、要求や関心にねざして、気軽に、楽しくやる——その道が見えてきたと思います。何気ない班会議でのつぶやき、ハイライトビデオの感想やうけとめが大事な出発点になります。そして「気軽に」「楽しく」やってこそ、青年らしい大学習運動になります。まずは今日参加した感想や学んだことを伝えることから始めてほしいと思います。また、「民青新聞」「われら高校生」の記事や、全国の経験にも学び、大小さまざまな規模で、県・地区・班で学ぶとりくみにふみだしてほしいと思います。

二つ目は、「つづけること」「くりかえすこと」の大切さです。今回の講座でも、最初は苦手意識や難しいイメージをもっていた人が、学びのおもしろさに出会い、成長できたという自分の変化がたくさん交流されました。もちろん、今回の講座だって一回聞いただけではわからなかったところもあったと思います。でも、わからなかった自分がダメだと思ふ必要はまったくありません。まだ残されている疑問や、新たに知りたいと思ったこと、そういう問題意識をもったこと自体が大事だという田村さんのアドバイスを胸に、次の学習へつなげてもらえたらと思います。

三つ目は、学習が魅力ある班活動をつくるカナメとなっていることが交流されたと思います。「学ぶからこそ元気に活動できる」「学ぶからこそ仲間を大切にできる」…そんな思いが、討論のなかでも交流されましたし、班や地区でのさまざまな努力も学びあうことができました。その中身を生かして、ぜひ魅力ある班づくりをすすめ、今生まれている組織的前進の芽をいっそうそだて、花開かせていくとりくみを全国ですすめたいと思います。

最後になりますが、今日の講座の意義をとっても実感した宮城の仲間の感想文を紹介して終わりたいと思います。

「今自分はどう生きていくべきなのかと模索しています。職を転々とし、30歳にしてフリーター。こんな自分にどんな未来があるというのか…。自暴自棄になるまではいかないけど、苦しいです。1日目の話を聞いて、青年の成長とは決して自己責任ではないということがわかりました。学校が嫌い。人が嫌い。

こんな自分が、いま人が好き。こうなったのも民青が大きい。今回の講座はその答えを求める自分が参加させたといえます。それは今日の講座にヒントがありました。民青での学びが確実に私の人生にプラスに働いている。未来に希望が見えず、現実に嘆いている自分でも、なぜか俺は元気。それこそ民青の学びがあるから。そして学ぶことは決して楽な道ではなくても、確かに生きているという手ごたえがある。学びには終わりが無いと言う。以前の自分はこの言葉に絶望すら感じました。でも今は違います。この言葉に限りない希望があります。生きていていいことがありそうだと思います。今回のお話は一つ一つ事実にもとづく話でしたが、それが綱領を通すと生きる希望へと変化するなと思いました。

今回の講座を力に学ぶ魅力を、そして学ぶことによって得られる若者として生きる力を、全国の仲間へひろげ、基本的性格が輝く民青同盟へと前進していくことをよびかけ、講座のまとめと行動提起としたいと思います。ともにがんばりましょう。

以上